

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2015年度 第3号

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751
E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp
中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116

E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>



©岐阜県

今年も収穫の秋を迎えました。私どもの試験研究も終盤となり、いよいよこれから試験の結果が明らかとなってきます。生産者に使っていただける成果として発信できるように、後半もがんばって参ります。さて、本号ではトマトの20t穫り、輪ギクの開花遅延技術の研究状況についてご紹介します。

夏秋トマトの20t/10a穫り

夏秋トマト産地では、長年にわたる連作や温暖化による夏季高温傾向等によって、土壌病害による被害が増加する傾向にあります。そのため、病害に汚染された土壌から隔離して低コストかつ安定的に栽培すること、またその特性をいかして多収を達成することを目標に研究を進めています。

本所（飛騨市古川町）では、飛騨地域の夏秋トマト産地に適する作型として、

- 5月下旬～6月上旬にセル苗定植
- 秋季までに6～7段果房を収穫
- 直立仕立て株間20cmの密植
(5,000株/10a)

に取り組んでいます。

本年度は養水分の供給方法を改良したことにより、果実肥大が良好で、昨年度に比較して収量性が向上し、実用化に向け大きく前進しました。



図1 秋季の着果状況（本所）

中津川支所（中津川市千旦林）では低標
高地域の夏秋トマトに適する作型として、
○4月下旬定植による栽培期間の拡大
○密植（3,333株/10a）の実現
○仕立て法の改良
に取り組んでいます。

隔離栽培で施肥をコントロールすること
により茎葉の過繁茂を抑え、密植を可能に
するとともに、仕立て方法の改善により密
植での長期栽培が可能となりました。
初期から良好な着果が得られ、
収量20t/10aの達成が期待できます。



図2 低段果房の着果状況（支所）

● 赤色LEDを利用した「飛驒黄金」の開花遅延技術

本所では、季咲きではお盆頃に出荷となる黄色
輪ギク「飛驒黄金」をより簡単に開花を遅らせ、
秋の彼岸に出荷する技術として「電照栽培」を検
討しています。昨年度、電球型蛍光灯と赤色LEDラ
ンプを用いて摘芯後毎日夜10時から5時間点灯し、
出荷予定日の45日前に電照をやめることで出荷予
定時期に開花するとの結果を得ました。本年度、
出荷予定日を9月11日として追試験を行い、いず
れの光源でも昨年度と同様に予定日の前後1週間以
内に開花することを確認しました。

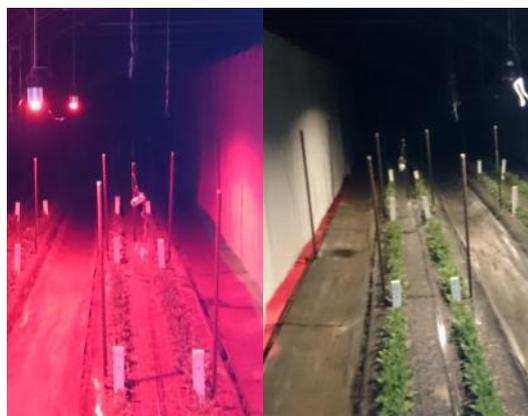


図3 2種類の光源による電照の様子

● 8月下旬に試験研究中間検討会を開催しました。

毎年恒例の中間検討会を8月25日（本所：写真左）、8月27日（中津川支所：写真右）の両日に開催し、本所支所合せて160名の参加がありました。参加の皆様からは多くのご意見やご質問を頂くことができ、有意義な検討会となりました。いただいたご意見・ご質問等を踏まえて、より生産者のためになる成果を目指して参ります。

